

学 習 日 誌

12月19日（金）	講 師	田口、藤原、進藤、瀬戸口、内田、國分、佐野
出席者数	68名	記 録 者
		8年7班 田口 康博
講 座 名	歴史グループ講座1 「ロシアと日本人漂流民」 講座後班活動	
プログラム担当者	歴史グループ（日本史、世界史）	
時 間・場 所	13:30 ～ 15:30 、 第一集会室その他にて	

【学習内容】

新規ジャンルグループ/日本史と世界史による共同グループ発表が行われました。



- 【1】はじめに：江戸中期頃から西欧による通商国交の要求に幕府はどのようにして、
対応してきたか。明治維新へと繋がる動向を遡ってみる （田口）敬称略
- 【2】ロシア帝国のシベリア開拓 （藤原）
西欧諸国が海外に領土拡大を求めロシアも中央アジアから陸路東に進み
シベリアを開拓して領土を拡大した。ついに南下政策をとり日本に接触することとなる。
- 【3】ロシアへの日本人漂流民と日露交渉 （進藤）
ロシア領漂着の13組の事例に基づき、どのような待遇をうけ、年代の経過とともに、
漂流民の送還と遣日使節同行となっていたのかを説明。
- 【4】大黒屋光太夫の漂流譚 （瀬戸口、内田、國分）
ロシア漂流民の代表例として、伊勢国神昌丸船員の漂流から帰国までの経緯と
帰国後の処遇について説明。帰国後の光太夫は蘭学の発展に寄与し、幕府の北方政策にも
影響を与えることとなります。
- 【5】幕末の世界研究 （進藤）
オランダ、漂流民の体験による海外情報を幕府にもたらし、脅威を受け、
幕府要人、学者が世界研究が盛んとなっていく。
- 【6】まとめ （佐野）
日本人漂流民との関係を通じて国交樹立へ繋がっていき、「日本」が「世界史」
に第一歩を踏み出して行くこととなる。

B) 二部：講座終了後、班活動

- 【感想】*「合同共通テーマ」スライド、ナレーションと多彩で分かりやすく表現されました。
今後のジャンルG活動講座の一つの在り方として推進を期待します。 （自画自賛）